

アジアの友

The Asia-no Tomo

8-9

AUGUST-SEPTEMBER

2010

留学生 “30 万人計画” と “受け入れ戦略”

(財) アジア学生文化協会 教育交流事業部 白石勝己

(インタビュー) 東京外国人雇用サービスセンター「留学生の就活」

(インタビュー) 黄孝江さん「私の日本留学と韓国の今」



ABK 日本語コース林間学校より



ABK日本語コース 林間学校



毎年富士山麓で行われる ABK 日本語コースの林間学校が7月8日・9日（Sコース）、16日・18日（Dコース）の日程で行われました。日本の自然、文化に触れると同時に、普段とは違った学友や先生の素顔に触れ、交流を深める貴重な一時となりました。



アジアの友

2010年8-9月号 第486号

目 次

2	巻 頭
	留学生“30万人計画”と“受入れ戦略” (財)アジア学生文化協会 教育交流事業部 白石勝己
10	<インタビュー> 東京外国人雇用サービスセンター 山片健司さん 「留学生の就活」
16	<インタビュー> 黄孝江さん「私の日本留学と韓国の今」
27	<知友会通信> 奨学金・イベント情報
29	<メンバーズ> ご入会とご寄付のご報告
30	<ご報告> ABK 同窓生募金(2010年7月31日現在) 募金に関するメール

<表紙写真>

ABK 日本語コース 林間学校より。富士山をバックに
集合写真 (D コース)

留学生“30万人計画”と“受入れ戦略”

財団法人アジア学生文化協会 教育交流事業部 白石勝己

1 30万人という数字はどこから 算出されたか？

留学生30万人計画は第2次計画であり、第1次計画はよく知られるように1983年に当時の中曽根内閣によって提唱された留学生10万人計画で、目標としていた21世紀初頭2003年に一応の達成を見た。“一応の”と枕詞を置いたのは、10万人到達までの30年間には幾多の紆余曲折があったからである。その経緯については、拙稿「留学生数の変遷と入管施策から見る留学生10万人計画」(ABK留学生メールニュース 2006年12月号)¹をご覧ください。

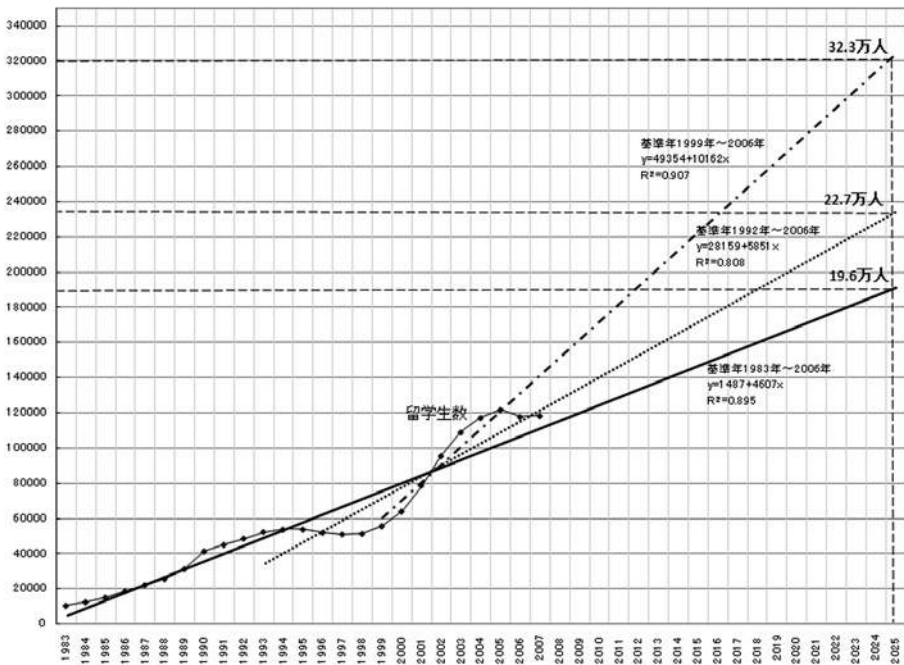
10万人計画達成後の数年間、留学生政策は倦怠期のように目線が定まらない時期が挟まるが、2007年に入り安倍内閣の時の教育再生会議やアジアゲートウェイ構想などで、100万人だ、35万人だと景気のいい数字が打ち上げられた。安倍内閣の後を受けた福田内閣の「中央教育審議会留学生特別委員会」において、政府方針として正式に「留学生30万人」の数値目標が掲げられたが、これに先立って実施されたひとつの調査によって30万人という数字に根拠が与えられた。それは「留学生交流の将来予測に関する調査研究」(研究代表者 横田雅弘)²で、筆者もメンバーの一

員として同研究に参画したが、実は、30万人という数字はいくつかの試算がなされたうちの最も大きな予測値であり、その到達時期も2025年であった。

同研究における推計の方法は二種類の方法で行われた。その一は過去の留学生数の増加傾向と政策的動向を下に、それぞれ特色を持つ期間の増加率を趨勢線として将来に延長する方法。もう一つは、4年制大学に対するアンケートで将来の留学生受入れ予定計画を問い、それを集計するという方法を採用した。ここで出された予測は、2025年において最大値で323万人、最小値で196万人というものであった(図表1)。もちろん、同研究で採用した方法はどれも過去の経験値を趨勢伸長して推定されたものであり、将来的に起こるであろう様々な環境変化は変数として組み込まれてはいない。

従って、きわめて楽観的に見るならば、すなわち国際的に日本の経済的、技術的、政治的プレゼンスが高く維持され、大学の教育研究内容が十分国際的に評価されるレベルに到達すると考えれば、さらにプラスの係数を掛けなければならないだろうし、逆にネガティブな要素が多いと考えるならば(実際、こちらの可能性の方が高いのだが)マイナスの係数を掛けなければならない。政府が同研究の試

(図表1) 趨勢線の当てはめによる補外予測



2007「留学生交流の将来予測に関する調査研究」6 ページ

算より5年前倒しし、2020年までに最大値である30万人を受け入れるという目標を建てたことは、国家的な施策として極めて積極的に政策的テコ入れするという意味となろう。

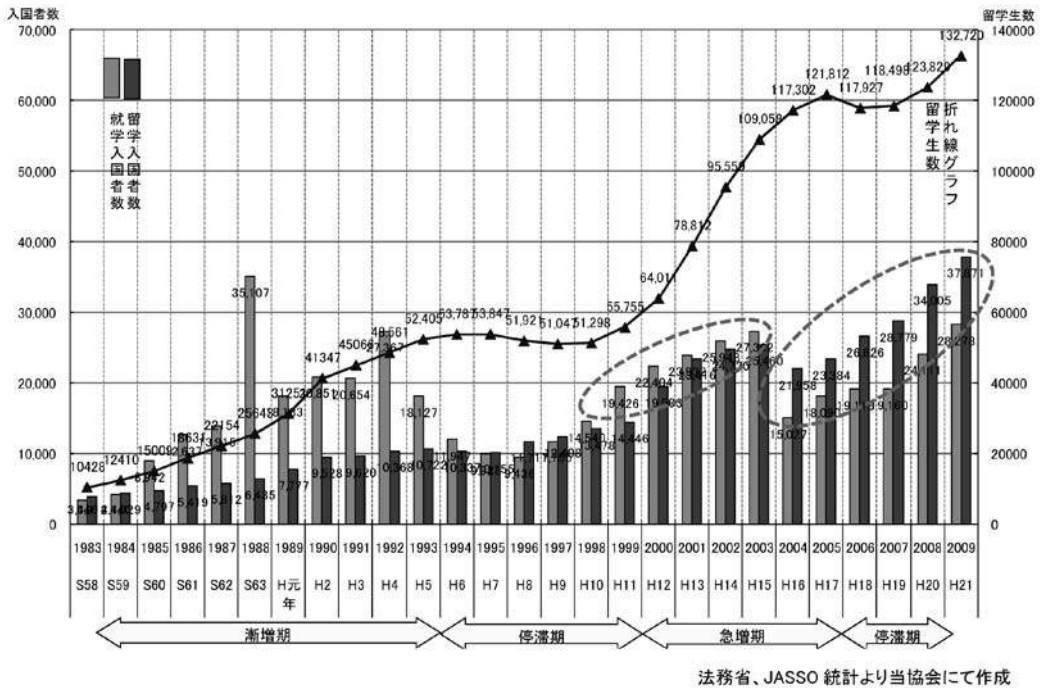
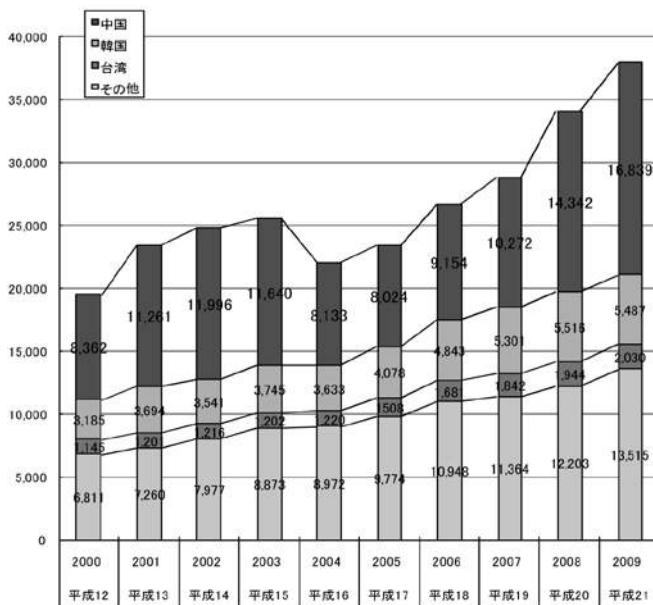
2 最近の留学生受入れの動向

それでは、最近の留学生数の動向はどうなっているのでしょうか。当協会では留学動向を知る資料として、毎年留学生数の経年変化に「留学」「就学」資格の新規入国者数を重ねたグラフ(図表2)を作成し分析している。

ここでは2000年以降の特色について概括して見ていきたい。2000年から2005年まで留学生数が急増しているが、これは2000年から2003年までの「留学」ビザ、「就学」ビ

ザ新規入国者数の増加の結果であり、つまりは10万人計画という国家目標の達成のために、入国管理局が取った極端なビザ緩和政策によってもたらされたと見ることができる。しかし、2003年に留学生が関連する複数の事件が発生し、大きく社会問題化したことを受け、2004年初頭より入国管理局による在留資格審査が厳格化された。その影響で、2004年、2005年とも「留学」「就学」資格の新規入国者は激減し、2年後の2006年の留学生数の減少(対前年比約4000人減少)に繋がる。その余波は2008年まで続き留学生数は横ばいとなったが、2009年には停滞期を脱し、主として「留学」資格の入国者数の増加により過去最多の13万人となった。「就学」資格での入国者数も2004年の落ち込みが2009年でよ

(図表2) 趨勢線の当てはめによる補外予測

(図表3) 「留学」資格の国・地域別新規入国者数
(中国・韓国・台湾・その他)

うやく 2003 年の水準に戻った。この数年の動向から読み取れる事実は、留学生数だけを見れば緩やかな上昇傾向だが、入国者数は急速に増加しているため、今後 2・3 年は再び 2000 年以降のような急曲線を描いて留学生数が増加するであろうということである。

もう一つの留意点は、2002 年までの留学生数は少なからず「就学」つまり日本語学校生の数が先導的な影響を与えていたのであるが、2004 年以降は「留学」資格の新規入国者数増加に支えられて留学生数が維持、伸長している点である。これまで、大

学の留学生募集は、ほぼ国内日本語学校経由での受入れであったが、2000年以降、大学等が海外から積極的に直接受け入れる動きが加速し始めたということができる。

この、「留学」の新規入国者数を国・地域別で表したものが図表3である。一時的に落ち込む以前、10万人に到達した2003年と比較しても、「中国」は11.6千人から16.8千人(45%増)、「韓国」は3.7千人から5.5千人(49%)、台湾は1.2千人から2千人(67%)、「その他」は8.8千人から13.5千人(53%増)へと大幅に増加している。

図表4①で、2009年における「留学」資格での入国者数上位30位の国・地域の内訳を示し、さらに、入国者数に対する留学生の割合を算出した。この割合によって、各国・地域別に留学生の滞留の状況について一定の傾向を見ることができると考えられる。つまり、ハイライトした欧米豪およびシンガポールについては、割合が1またはそれ以下であり、これらは学位取得を目的とした留学というよりも、1年以下の短期留学が主流であると推測されるのである。

次に、「就学」資格においても、新規入国者数の国・地域別推移を見ておきたい。「留学」同様、2003年から2004年にかけて新規入国者数が急激に落ち込んでいるが、その落ち込み方は「留学」よりも激しく、27.3千人から15千人へと45%も減少した。2009年にはほぼ2003年の水準へと回復しているが、前年と比較すると、中国は12.6千人から18千人

(図表4) 2009年における「留学」資格の国・地域別
新規入国者数と留学生数比較(上位30)

	国・地域	①「留学」新規入国者数 (2009年1月～12月)	②留学生数 (2009年5月1日)	②/①	
1	中国	16,839	72,766	4.3	
2	韓国	5,487	18,862	3.4	
3	米国	2,988	2,024	0.7	
4	中国(台湾)	2,030	5,082	2.5	
5	タイ	859	2,203	2.6	
6	ベトナム	821	2,873	3.5	
7	インドネシア	772	1,791	2.3	
8	フランス	652	574	0.9	
9	マレーシア	639	2,271	3.6	
10	ドイツ	618	479	0.8	
11	香港(中国・英国)	451		0.0	
12	英国	367	400	1.1	
13	オーストラリア	308	347	1.1	
14	モンゴル	281	1,145	4.1	
15	カナダ	271	319	1.2	
16	ミャンマー	254	922	3.6	
17	フィリピン	245	527	2.2	
18	ネパール	223	1,476	6.6	
19	バングラデシュ	215	1,686	7.8	
20	スウェーデン	197	155	0.8	
21	ロシア	171	315	1.8	
22	インド	144	544	3.8	
23	オランダ	138	116	0.8	※
24	イタリア	137	177	1.3	※
25	スリランカ	134	1,097	8.2	
26	シンガポール	131	193	1.5	※
27	ブラジル	122	331	2.7	
28	フィンランド	118	105	0.9	※
29	ノルウェー	113	105	0.9	※
30	カンボジア	104	287	2.8	

①法務省統計 ②JASSO統計 但し※は法務省統計 外国人登録在留資格「留学」

へと大きく増加しているものの、韓国は6.1千人から4.5千人へ27%減少している。これはウォンに対する大幅な円高とともに、ワーキングホリデーの拡大も影響していると考えられる。

韓国から日本へのワーキングホリデー制度³は1999年に1,000件の発給枠で開始されたが、2002年1,800件、2006年3,600件、2009年7,200

件と数年毎に倍ずつ拡大され、さらに2012年には1万件の発給枠となることが決定している。1年の在留期間で、「特定活動（ワーキングホリデー）」の在留資格が与えられ、当然就労も認められるが、この間旅行でも、勉強でも活動の内容に特別の制限はない。アルバイトにも週28時間以内という時間的な制約がある「就学」と比べると、断然使い勝手がよいビザである。

また、2006年からは短期ビザ90日の査証免除も実施されており、半年程度での日本語学習を希望する場合は、途中で1回帰国すればよく、特に「就学」ビザを取得する必要も無くなっている。このような入国形態の多様化が、結果的には「留学」ビザでの入国者数を押し上げることにもなると考えられる。

3 留学生受入れ戦略

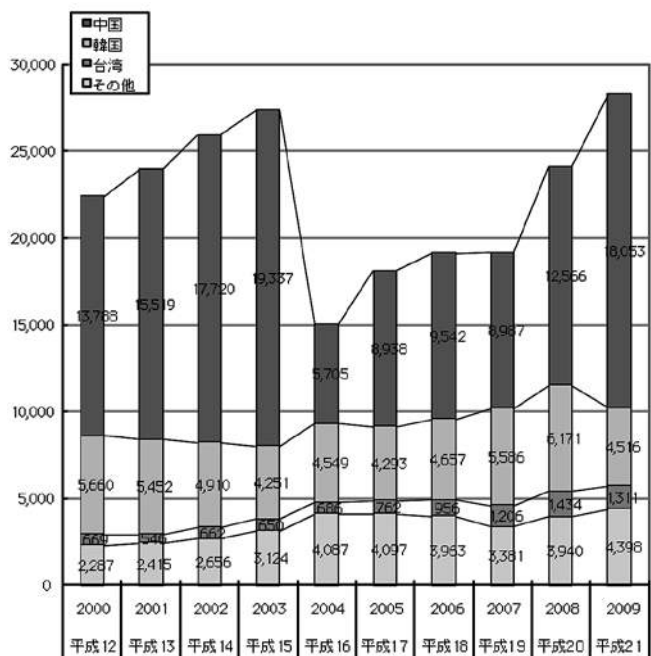
“どこから？” “どのように？”

1983年から始まった留学生10万人計画の時代では、留学生の受入れは発展途上国に対する人材育成支援、ODAに沿った国際貢献であるとするアプローチが主流であった。留学生30万人計画では、その様相ががらりと変わり、日本における高度人材の獲得、大学の国際化、少子化問題と大学経営など、もっぱら国内的な事情による論点が中心となった。しかし、かつても現在も留学生受入れの実態は一様でなく、その時代の社会的要請にウエイトが乗ることがあっ

ても、常に多面的な要素が含まれているということに留意すべきである。図表6は横軸に経済要素、縦軸に私費か公費かという制度的要素をとって大掴みに留学生の受入の形態をイメージ化したものである。横軸に一人当たりのGDPを指標とし、中間点を6,000米ドル程度と想定している。参考としてアジアの国・地域の2009年度の一人当たりのGDPを図表7に示した。

図表6のI領域の左側は一人当たりのGDPが年1,000ドル台またはそれ以下の国・地域となり、一般的に個人の経済力が弱い。そのため高額な教育負担はできず、私費留学が選択肢に入ることは少ないと考えられる。しかしながら、先進諸国への出国圧力は高く、留学は最も優位度が高い出国方法であり、留学をテコとして留学先の国への長期

(図表5) 「就学」資格の国・地域別新規入国者数
(中国・韓国・台湾・その他)



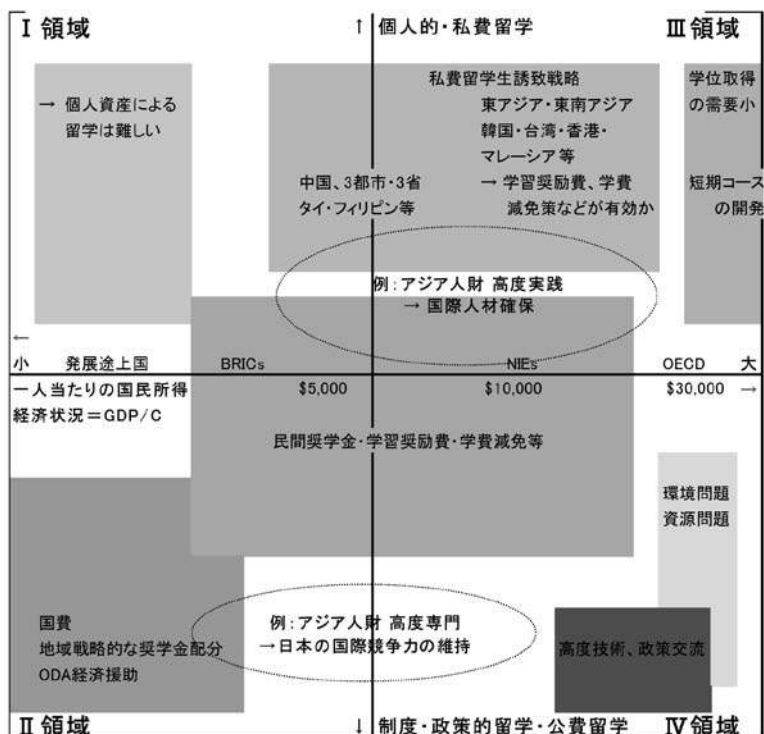
定住という側面も出てくる。一方で、留学したとしても経済的なバランスを取りきれず、奨学金などの支援が乏しい場合は労働目的（不法残留）に変容する危険性は否めない。ビザ審査でも財政関係の立証書類を揃えることは難しく、入管での厳格な審査が実施されている。

これらの国・地域からの留学生受入れはⅡ領域のより厚い奨学金制度に則った制度的留学がメインとなるが、当然のこ

ととして選抜が厳しくなり、人数も極めて限定的にならざるを得ない。国費留学生や政府派遣留学生、一部財団の現地選抜による奨学金などにより、経済的な部分の担保がなされることとなる。実は、昨年2009年度の留学生関連予算434億円のうちの約半分の220億円が国費外国人留学生1万2千人⁴に充てられていること、つまり、その多くがⅡの領域で消化されていることはもっと注目されてもよいと思う。

領域Ⅲは私費留学生の誘致戦略の中心的位置となる部分である。日本周辺の東アジア地域では、すでに一定の経済的水準に達しており、高等教育就学率は世界的に最も高くなっている（韓国は82.8%、台湾70%⁵）。

（図表6） 留学生受入れに関する特性要因イメージ



順位	国名	GDP/人 (USDドル)
17	日本	39,731
20	シンガポール	37,293
25	香港	29,826
30	ブルネイ	26,325
38	韓国	17,074
39	台湾	16,392
68	マレーシア	6,897
94	タイ	3,940
95	モルディブ	3,932
99	中国	3,678
118	インドネシア	2,329
120	スリランカ	2,041
121	ブータン	1,881
123	フィリピン	1,746
125	モンゴル	1,560
138	ベトナム	1,060
140	インド	1,031
141	パキスタン	1,017
146	ラオス	878
149	カンボジア	775
157	バングラデシュ	574
160	東ティモール	543
166	ミャンマー	459
167	ネパール	452

IMF World Economic Outlook Database
April 2010

（図表7） アジア諸国・地域の国民一人当たりGDP

高等教育自体の質や優位性で留学先が選択され、ビザなどの障壁も低くなり国際間の人の移動が極めて容易になりつつある。一方、前節図表4で示したように、欧米豪からの留学生は学位取得というよりも、大学間協定等による交換留学、1年未満の短期留学が主流となっていると見る事ができる。

第Ⅳ領域は、先進国からの公費による受入れとなり、より国際的・政策的戦略による受入れとなる。他にも様々な要素を「軸」として想定し、個別の大学等教育機関において自らの教育・研究の特色を当てはめていくことで、どこの領域（国・地域）から、どのように、そしてどのような留学生を受け入れるかという戦略的考察が可能となるだろう。

4 30万人 達成の条件と可能性

今年7月から、「就学」ビザが「留学」ビザと統一され、法務省で集計される外国人登録者の数では留学生数が一挙に192,668人となった（「留学」145,909人、「就学」46,759人、「留」「就」の超過滞在7,730人を含む）。1節で示した新規入国者数のここ数年の急増を見る限り、そう遠くない時期に30万人に到達できそうな見通しが立てられそうだが、もちろん実際は簡単ではない。

簡単でない理由は、短期的には現在進行中の円高状況により、来年に向かって大きい影響が出ると考えられる点である。韓国ウォンに対しては2007年よりも60%、中国元は20%、台湾ドルは29%もの円高であることから、日本留学はかなりの割高感が出ている。中長期的には、世界における日本のポジショ

ンの問題が挙げられる。経済的面でも科学技術の面でもアジアの国々が力量を付け、停滞気味の日本とは勢いの差が感じられるようになってきている。留学先としてどの国を選ぶかということは、少なからず各国が持つ政治、経済、科学技術に関するポテンシャルが関係するだろう。そのような中で、世界的には中国および韓国のプレゼンスが高まってきていることは十分認識されているところである。

それを裏付けるように、中国は2008年に

（図表8） 留学生送り出し国・地域

2006年 留学生送り出し国・地域		
NO	国、地域	学生数
1	China	417,567
2	India	139,472
3	Korea (Republic of)	102,290
4	Germany	70,020
5	Japan	60,247
6	France	54,172
7	Turkey	52,942
8	United States of America	46,146
9	Morocco	44,648
10	Malaysia	44,287
11	Canada	42,794
12	Russian Federation	39,663
13	Greece	37,998
14	Indonesia	33,554
15	Hong Kong (China), SAR	33,472
16	Poland	32,794
17	Italy	32,532
18	Uzbekistan	28,981
19	Ukraine	27,163
20	Kazakhstan	27,076
21	United Kingdom	26,482
22	Bulgaria	25,809
23	Thailand	23,999
24	Spain	23,966
25	Mexico	23,919
26	Pakistan	23,725
27	Viet Nam	23,477
28	Algeria	23,472
29	Romania	21,498
30	Nigeria	21,474
31	Other	870,223
Total		2,475,862

UNESCO 統計より作成

22 万 3 千人の留学生⁶を受け入れたと発表、2020 年には 50 万人の留学生を受け入れるとしている。また、韓国は 2000 年 3 千人あまりの留学生数だったものが、2008 年には 4 万人を越えている⁷。実は、この二国間では、中国では韓国からの留学生が最も多く、また韓国では中国からの留学生が最も多いという状況になっているのである。留学といえど欧米先進国へ行くという概念が、東アジアでは崩れてきているといえることができる。

逆に留学生の送り出し国としても、東アジアは最も移動の活発な地域となっている。図表 8 は 2006 年のユネスコ統計から集計したもので、これを見ると中国から海外へ出た留学生数は 41.7 万人で 1 位、韓国は 10.2 万人で 3 位である。これに 5 位の日本 6 万人を加えると 57.9 万人となり、全体数 247.5 万人の 23% を占め、世界の留学生市場のメインターゲットとなっている。

このような地域のただ中であって、日本はどのような戦略を採るべきであろうか。これに関して、様々な調査研究から提言が出されているが、先にあげた「留学生交流の将来予測に関する調査研究」でも 10 の提言としてまとめられている。ここで詳しく触れる紙幅はないが、いずれもこれまでの国内に重心を置いた学生募集、教育・研究体系から国境を

越えた発想への転換がキーとなっている。すでに留学生を積極的に受け入れているいくつかの大学、学部・研究科、専門教育機関ではその方向での努力が開始されているが、まだ総体としての結果が表れてきているとはいえない。政策的には各国ごとに配慮されたきめ細かい入り口戦略、日本語教育も含む入国後の生活環境の安定、就職までの出口戦略をパッケージとして一貫したサービスが提供されるならば、大学等の負担は軽減されることだろう。個人に配分される奨学金や学費減免などの経済支援も、もちろん必要であるが、むしろ受入れ環境整備のためのサービスインフラの整備にも積極的な予算配分があていだろう。

これまで見たように、少なくとも留学に係る日本の地理的な位置取りは決して悲観的なものでない。また、日本にはこれまで高等教育に投資、蓄積された十分な人材、施設などが存在するし、分野によっては世界水準の教育研究が行われている。まだまだ売り出し方や組み合わせ方を工夫すれば、十分世界にアピールできるはずである。各教育機関単独での努力では限界もあるものの、まず大学自身が十分な戦略を携えつつ「隗より始める」覚悟が必要ではないだろうか。

(終)

1 <http://www.abk.or.jp/asia/pdf/20061225.pdf>

2 平成 18 年度文部科学省先導的大学改革推進経費による委託研究 研究代表者：横田雅弘

3 外務省ホームページ http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/korea/nk_wholiday.html

4 文部科学省「我が国の留学生制度の概要（平成 21 年度版）」より

5 外務省 諸外国の学校情報 http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/

6 人民日報社 HYPERLINK "http://j1.people.com.cn/index.html" 人民網日本語版 2009 年 5 月 26 日

7 UNESCO Institute for Statistic <http://www.uis.unesco.org/>

インタビュー

留学生の就活

東京外国人雇用サービスセンター

専門援助第三部門 統括職業指導官

山片健司 さん



東京外国人雇用サービスセンター

近年注目を集めるアニメやマンガ産業だけでなく、家電製品やカメラなど多くの日本製品は今なお世界の若者たちの憧れであり、日本産業界の魅力は留学生たちが日本を目指す大きな要因となっている。彼らが憧れの日本企業で働きたい、経験を積みたいと思うのは当然のことなのだが、昨今の不況による就職難はもちろん、採用において留学生を日本人学生と平等に評価をしようという日本企業はまだまだ少数のように思える。「留学生 30 万人計画」が思惑通りに進めば、高度人材と呼ばれる優秀な留学生が増えるであろう一方、その何倍もの夢見るごく普通の若者たちがアジアを中心に世界各国から集まってくるだろう。成績についてはそこそこだとしても、日本人にはない発想、能力を持ちながら、日本文化への理解が不十分だから、日本語がネイティブではないからという理由で彼らが日本就職の機会を失うことになれば、日本留学の魅力が半減してしまうのはもちろん、グローバル化が急務とされる日本の産業界にとっても大きな損失になるだろう。

そこで今回は、留学生の就職相談を専門に扱う東京外国人雇用サービスセンターの^{やまかた}山片健司さんに“留学生の就活と求人の現状”について、お話をうかがった。

—— センターについて教えてください。

ここは留学生専用の公共職業安定機関で、求人情報の紹介をはじめとした留学生からの就職相談、在留資格の変更に関するご相談を受けています。また、外国籍の学生さんであれば、いわゆる留学生枠で来ているかどうかに関わらずお話をうかがえます。

こうした留学生専用センターは現在日本で3か所＝東京、名古屋、大阪に設けられており、また、まだ日本人センターと窓口は一

緒ですが、今年4月から福岡でも相談の受付を開始しました。

利用者の多くは留学生の新卒者ですが、元留学生の方で一度就職をされて転職を希望される方のご相談も受けています。在留資格で分けているので日本人の配偶者や定住者については新宿の外国人雇用支援・指導センターで相談を受ける形になっています。

相談受付、求人紹介のほかに、就職ガイダンスや書類対策、面接対策のセミナーの開

催、企業の面接会なども主催しています。またガイダンスなどは、大学に出張して行うなど、我々単独ではなく、大学と連携をとる形でを行っています。

—— 留学生の就職に関して大学の対応についてはどのような感触をもたれていますか。

留学生として積極的に指導するところと、来る者には指導するがそれ以外は・・・というところと、温度差はかなりあります。留学生の場合は就職相談にどこに行けばいいのかわからないという人が多く、大学の就職課（キャリアセンター）にも行かないケースがあります。本来行けば何か情報があるはずですが、そういったことが留学生には伝わっていません。これは国際交流課や留学生課とキャリアセンターとの連携がうまくいっていないことが一つの要因でもあるようです。国際交流課にはよく顔を出すと言う留学生は多いので、そういったところに就職関連の情報を掲示するなどの工夫をしている大学もあり、ちょっとしたことですが、周知効果は大きいと思います。

—— センターへの登録はいつからできるのでしょうか。

大学学部生の場合、登録は3年生の4月から受けていますが、留学生の場合は4年生から動き出す方が大変多いのが現状です。本来は3年生で登録していただいて、ガイダンス等で日本の就職活動（就活）スケジュール等をお知らせするのが理想的なのですが、3年生の登録者はまだまだ少数です。

—— では登録者数はいかがでしょうか。

2009年12月現在の登録留学生を見てみると、3200名弱が登録されています。年度で言いますと、3400～3500人には毎年なっ



お話をうかがった山片さん

ているようです。男女比はほぼ半々ですが、女性が少し多いと言う感じです。

—— 文系の方が多いのでしょうか。

8～9割は文系の方です。逆を言えば、理系が弱いということになります。企業に理系の求人を出していただくと非常に嬉しいのですが、逆に登録者が少ないため該当するような方がなかなか見つからないということもあります。ですから理系学科のある大学に求人情報を流すなどの対策をとっています。

—— 理工系の方は大学を通じて、もしくは自分で仕事を見つけることが比較的容易ということでしょうか。

そうですね。昨年秋に、ある国立の理工系専門の大学で我々がガイダンスを行ったのですが、その時職員の方から、「毎年それほど困ってはいない」というお話をうかがいました。ただし今年（2009年）は例年と違って、事実その大学の卒業生の方で、まだ就職できないという方が冬にセンターにい

Ⅱ 先輩留学生の就職状況について

「平成21年における留学生等の日本企業等への就職状況について」(法務省22.7発表)

留学生等からの就職目的の申請数等の推移

(単位 人)

	平成15年 (2003年)	平成16年 (2004年)	平成17年 (2005年)	平成18年 (2006年)	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)	平成21年 (2009年)
留学生総数	109,508	117,302	121,812	117,927	118,498	123,829	132,720
申請件数	4,254	5,820	6,788	9,034	11,410	11,789	10,230
許可件数	3,778	5,264	5,878	8,272	10,262	11,040	9,584
不許可件数	476	556	910	762	1,148	749	646
許可率	88.8%	90.4%	86.6%	91.6%	89.9%	93.6%	93.7%

※留学生総数は「外国人留学生在籍状況調査」(独立行政法人日本学生支援機構)より抜粋、各年5月1日現在

☆Point 許可件数は年々増加しているものの許可率は100%ではない！

センター資料

らっしゃいましたので、やはり昨年度はかなり状況としては悪かったのではないかと思います。

入管発表のデータを見てもわかりますが、申請件数は2008年まで増加していますが、2009年は落ちています。我々の方でも3月に、その年に卒業する登録者に内定状況に関するアンケートを出していますが、今年の内定者は25%で、非常に悪い数字でした。前年度は40%くらいですから、だいたい入管発表の数字とも一致します。

—— 留学生向けの求人と言うのはどのようなものが多いのでしょうか。

その国と取引きがある、工場があるといった関係で現地に出張も行かなければいけない、電話や文書でのやり取りが必要なので、現地語のネイティブレベルが欲しいといった求人がこれまで最も多いタイプでした。

これに加えて、昨年度の終わりくらいから目だって増えているのが、中国に今後進出する、あるいは現在進出している企業が将

来現地の幹部になってもらうような人材を募集する求人です。今も大手の家電量販店やいくつかのメーカーからこういった求人が出ています。ただそういった仕事は現地に行った際の待遇がローカル基準に近づいてしまい、これまでは求人があっても人気がなかったのですが、今年は留学生側の希望者も増えています。

こういった募集は文系総合職で、大手中堅企業が多

いですね。中小零細企業の場合は、例えば中国専門の旅行会社で、特に中国人ビザのハードルが下がった関係で事業を拡大するためネイティブスタッフが欲しいといったケースが多いです。

—— 出身地域を希望する場合、どの地域の学生の求人が多いのでしょうか。

これは圧倒的に中国です。おそらく言語を指定してくるような求人ですと、統計はとっていませんが、9割は中国語でしょう。逆に韓国語は少なく、ベトナム語、タイ語が中国語に続きます。

ただ「ベトナム語人材・・・」という求人をいただいても、該当する登録者の方も少ないので、自信を持って学生さんを紹介できない辛さもあります。

もちろん求人数は選べるほどではありませんし、専攻が合うか、仕事内容が本人の希望と合うかなど一概に言えませんが、中国語の場合と比べれば倍率は非常に低くなりますから、そうした地域出身の方であれば、内

定が出る可能性は非常に高いということになります。

——— その他の国の出身者（言語）についてはいかがでしょう。

言語に関しては、企業が先の3つ以外を希望してくるケースは稀です。理工系やIT関係などは出身地域（言語）を問わないケースも多いのですが、文系総合職の場合は、どうしてもネイティブスピーカーが欲しいと言う求人が中心になります。我々の求人には国籍条項は設けられていないのですが、ある国との取引があり、言語はネイティブレベルということになると、おのずと出身地域も限定されてしまいます。

ただし最近では店舗開発、企画営業職などで言語の指定がいっさい無い求人も出始めています。ある大手コンビニチェーンでは、採用情報の中に留学生向けのページを開設していましたが、そこでは「外国との取引関係で募集するのではなく、日本人にはない発想力が欲しいからみなさんを雇用する」と謳っていました。

——— 日本人でも留学生でも構わないという求人はいかがでしょう。

最近になって、日本人・外国人の枠を特に設けず、会社が優秀と認めた人であれば国籍問わず採りたいと言う会社も出てきています。

実は留学生の一番の悩みと言うのは、自分が働いてみたいと思っている会社が、留学生を積極的に採っているかどうか、あるいは日本人と同じ土俵の上で評価してくれるのかどうか、それがわからない、見えてこないということなんですね。

会社情報で「母国と取引がある、工場がある、市場として注目している・・・」等の情

報が公表されていればいいのですが、なかなかそういった企業ばかりではありません。しかし実際には、母国との関連性が無くても、留学生が日本人学生と同じように応募してみたら結果的に内定が出たというケースがけっこうありますので、我々はそういった可能性のある企業に留学生の求人票を出していただけるようお願いをしています。そうすることによって、この会社は留学生も日本人同様に評価してくれるんだということが留学生に伝わります。それがどんどん広がって行けば、留学生も自分が興味を持った企業にごく普通に応募できるようになるでしょう。

——— インターンシップ事業もやられているようですが。

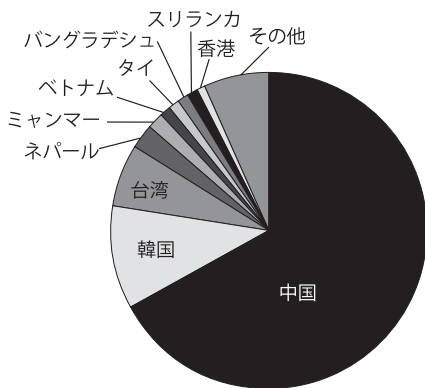
インターンシップについては、我々を通して、特に留学生の雇用経験の無い事業所で1週間程度、留学生に研修生として実習をしてもらうということをしています。

留学生に日本の企業を知ってもらうのはもちろんですが、企業も留学生とはどういう人たちなのか分かるきっかけになります。まだまだ数は少ないのですが、そういった取り組みの中で、留学生の良さを知ってもらい、求人が出たというケースもあります。

——— これまでには無い留学生への求人が少しずつ増えているということですね。しかし在留資格については、専攻が仕事内容と無関係だと変更が難しかったと思います。

今でも専攻と業務内容の関係は重要です。ただし、文系ですと在留資格「人文知識・国際業務」を取得することになりますが、最近では、例えば大学で法律を専攻したから法律関係の職種ではないとダメということはなく、かなり広い範囲で申請できます。また、現在

登録留学生の出身地別割合
(2009年度、センター案内資料より)



入管への申請で最も多いものが「翻訳・通訳業務」で、留学生の3人に1人がこの業務内容で在留資格の申請をして資格を取っています。「翻訳・通訳」は国際業務に当たりますが、大学での専攻は関係ありませんので、業務内容が該当するようなものであれば、理系の方でも「人文知識・国際業務」の資格が取れる可能性はあります。

例えば、増え続ける外国人接客のため家電量販店が母国語の話せる留学生を雇う場合、地域がら特殊性があるということで、「翻訳・通訳業務」で申請をすると認められるケースが出てきています。これまでになくお客さんが国際化してきているということで、そういった特殊性が認められ、在留資格がおりるということです。

——では、全体として見た場合、日本企業における留学生の需要は増えているように感じますか。

まだ来年の結果を見てみないとわかりませんが、今のところ“谷”は去年だったのでないかと思います。今年は今の時点で去年の求人数をはるかに超えていて、一昨年なみ

に戻ったかなという感じです。ただし、一部の量販店などは観光客需要で今年大量に外国人を採用しますが、採用が目標数に達すれば、その後は欠員補充という形になりますから、今後も右肩上がりに外国人求人が上昇するかどうかは不透明です。

——企業は留学生にどの程度の日本語力を求めているのでしょうか。

理工系、IT系など語学力を問わない職種もありますが、文系総合職の場合、日本語能力1級程度を希望するといったところが多いようです。実際企業では「ビジネスレベル」と言う表現を使うところが多いのですが、ではビジネスレベルがどのくらいなのかというと、日本人学生でも経験なしにビジネスレベルの会話をこなせる人はいないでしょう。私はよくガイダンスで留学生に、日本語には自信を持ちなさいと話しています。みなさんは習った日本語だから、普通の日本人よりきれいで丁寧な日本語を使っているんだと。ですから、無理に難しい言葉を使うのではなく、それを十分に使いなさいと話しているんです。

——ほかに留学生の方にはどのようなアドバイスをされていますか。

今の留学生がなかなか就職できない理由の一つに、スタートが遅いということがあります。4年生の夏からでは遅いんですね。学生、まして留学生ですから良い成績をとるために日本人以上に勉強に時間をかけたい、という気持ちはわかりますが、今の日本の就活システムがそうなっている以上、日本人同様にやらないとスタートダッシュで遅れをとってしまうということです。

特に大手企業の求人は早い時期に終了してしまいます。私はせっかく日本で就活をす

るのなら、大手も受けるべきだと思うんです。大手は倍率が高いかもしれませんが、留学生を採る確率も高いわけですから。

また、就活を日本人と同じペースで進めるために日本人と交流を深めてくださいとも言っています。留学生同士では、なかなかこの流れが理解できず波に乗りにくいということもあるでしょう。日本人と交流を深めることで、彼らに引っ張られますし、情報も入ってくると思います。

そういったことも含めて、まずは大学の就職課あるいはキャリアセンターに行きなさいとアドバイスをしています。そこが一番身近な頼りになる相談機関だと。キャリアセンターにはその大学にしかない情報が一杯あるはずなんです。先輩がどういうところで働いているかといった情報は、我々もわかりませんから。

——— 現在は、就活のために卒業後1年間のビザ延長ができますが、在学中はしっかり勉強に集中して、卒業後就職先を探すという考え方はいかがでしょう。

今の新卒の求人状況を見ますと、現役の方が有利なことは事実です。私たちは企業に求人票を提出してもらう際、前年度卒業者の応募の可否を必ず聞いていますが、結果は半々くらいです。もちろん卒業生については新卒求人だけではなく、一般求人からも応募はできますが、一般求人はもっと倍率が高くなりますし、経験者の応募が増えますから、条件としては厳しくなるでしょう。

もう一つネックとなるのは在留資格変更の関係です。中途採用の場合、会社としては内定を決めたらなるべく早く会社に出てきて欲しいわけ。ところが特定活動の方と



東京外国人雇用サービスセンター

品川公共職業安定所 六本木ジョブパーク地下1階
〒106-0032 東京都港区六本木 3-2-21

Tel 03-3588-8639

ホームページ <http://www.tfemploy.go.jp/>

8:30～17:15（土・日・祝日及び年末年始は休み）

※ 専門学校生の登録も可。日本語学校生も大卒者であれば登録可

いうのは、在留資格の変更に1か月以上かかってしまうケースが多いため、いつから働けますかと聞かれた時に、資格変更にかかる時間分不利になってしまいます。

ですから、我々としては卒業後1年は新卒者として見て欲しいと企業側にお願いをしているわけです。もし黙っていたら「否」と答える企業はさらに増えるのではないかと思います。

——— 本日は貴重なお話、ありがとうございました。

外国人雇用サービスセンターでは留学生の就活のために様々な対応を行っており、留学生や関係者にとっては心強い限りだ。もっともせっかくの情報もまだまだ留学生一人一人に十分届いているとは言えず、同センターには企業、大学、留学生の橋渡し役としてさらなる活躍を期待したい。

インタビュー

黄 孝江さん (Ms. Hwang Hyo Kang) (韓国)
 -私の日本留学と韓国の今-

近年目覚ましいほどの成長を遂げ、世界を舞台にした活躍が著しい韓国企業。同時に多くの優秀な韓国企業青年が、留学生として海外に勉学の場を求めている。今でこそ当たり前の話だが、30年前の韓国社会では考えられないことであり、当時はパスポートの取得さえ厳しく制限されていた。もちろん海外に留学できる者はほんの少数のエリートのみで、まして植民地支配を受けた日本に自費で向かう者など皆無に近かったという。そんな時代、留学先に自ら日本を選び、博士号取得までの14年間を日本で過ごしたのが黄孝江（ファン・ヒョガン）さんだ。韓国人女性としては、「他の女性のずっと先を歩いて来た」と振り返るファンさんに、留学生時代のことはもちろん、韓国企業躍進の秘密や、韓国人の留学熱についてうかがった。



韓国企業躍進の秘密

編集部 最近は韓国企業の国際的な活躍が非常に注目を集めており、日本にもこうした韓国企業の活躍に影響を受け、韓国に学べと言う空気が出てきています。ファンさんは、現在のこうした韓国の経済発展についてどのようにお考えですか。

ファン 今、韓国人は国際化に対しては非常に一生懸命、前向きに取り組んでいます。英語も大手企業では必修で出来なければダメで

すね。

また、会社がベストセラーの本を買って社員に配ったり、社員が自分が読みたい本を買ってくれば、会社がお金を出すということも聞いています。

もともとはサムソン（三星）でもヒュンダイ（現代）でもLGでも、日本のものをすごく取り入れてスタートしています。そして今、そこに韓国的な色を出しはじめたのだと思います。

日本企業は一つのことを決定するのに時間

がかかります。皆でそれがプラスになるかマイナスになるか相談して、根回しも必要になります。だけど、韓国では一人のトップが決定すればすべての重役が動き、社員が一丸になりますから失敗したときのリスクはありますが、うまくいけば次へのステップに進みやすくなり、成長するスピードは速い。

私も長く日本にいて日本の意思決定の仕方は良いなと思っていたのですが、韓国に帰国して18年住んでみたら、やはり何でもスピードは向こうが早い。ですから、今の世界で日本企業のやり方がうまくいくのか、これから疑問になると思います。韓国人が日本人を見ると、こうした国際社会の中ではあまりに慎重すぎるんです。

ただし、韓国は少数のエリートが全てを決定して周りを振り切っていく社会ですから、失敗した時、リーダーはすぐ責任をとらなければなりません。ですから、韓国人同士の競争がすごく激しい。そういった競争の激しさが日本に無い韓国的なものなのではないかと思っています。

こうした韓国のことを、「面白い地獄」と言う人がいます。一方で、アメリカのような安定した社会に移住して暮らしている韓国人はアメリカを「面白くない天国」だと表現しているんです。

以前、韓国で開かれたセミナーで日本の新聞社の特派員に会いましたが、彼は新聞記者としてももうすぐ定年を迎えるその最後の駐在国に自ら韓国を選んで来たと言うことでした。私がどうしてですかと尋ねたら、ここはすごく面白いと。韓国はいろいろなものが入り交じって競走が行われているから仕事が多

くて面白い。日本と違い、韓国はいつ何が起こるかわからない。それが記者としては面白いんだと話してくれました。

何が起こるかわからないというのは企業も同じで、会長や社長が何かを思い付いたら、自分の信頼している部下に夜中の2時でも電話をします。そして「調べて報告してくれ」となる。だから韓国人のエリート社員は24時間仕事をしているのではないのでしょうか。

度を越す留学熱と社会問題

編集部 一方で、競争社会に勝ち抜くために、海外留学をする子供が多いと聞きます。

ファン 最近の韓国は英語熱がものすごく、特に早期留学といって小学校4年生くらいになると英語圏の国に行かせて現地の学校に入れるケースが増えています。アメリカやイギリスだけではなくて、オーストラリアやニュージーランド、カナダなどにも行っています。また、最近は物価の安いフィリピン、シンガポールなどに行く人も出てきています。

こうした早期留学には母親も付いて行って、子供の面倒を見るんです。父親は韓国に残って仕送りをするわけですが、それは当然社会問題にもなっています。

さらに問題なのは、経済的に余裕のない家庭ではこの早期留学のために、親が自分たちの親、つまり子供の祖父母の経済力をあてにすることです。今、韓国のお年寄りで自立できている人は全体の20%に満たないと言われています。その理由として孫の留学

のために貯蓄を使い果たしてしまったことが原因であるケースも少なからず存在します。

また、幼稚園から英語のネイティブが運営している塾に通わせる家庭も増えており、教育レベルに差が出てきています。

編集部 若者の自殺者が主要国で最も多いというデータが最近出ましたが、こうした教育熱に伴う問題も背景にあるのではないのでしょうか。

ファン 昔はソウル大学といえ、貧乏だけど優秀な学生が集まるところだったのですが、今はお金をかけて育てられてきた子供たちがほとんどです。昔は「小さい川から竜が出る」という言葉があって、秀才のことを、小さな村から出てきた竜に例えたわけですが、最近は「小さい川からはミミズしか出てこない」と言われるようになってしまいました。国連の事務総長も豊かな家庭の出身者ではなく、彼は家の近所にあった肥料工場に来ていた外国人技術者の宿泊施設に行って英語を習ったそうです。昔の韓国ではそうやって英語を学ぶ人が多かったのですが、今は幼稚園から海外留学なんです。

一方で、そうした動きに反発する形で、代案学校（日本のフリースクールに近いもの）という学校が増えており、そこでは自由に自然と触れ合い、好きなことを勉強出来る。主に市民団体や個人が開設しているのですが、一般の高校や中学でうまくいかなくなってしまった子供たちたちを集めて、自然と接しながらの自由な教育を行っています。

外国留学をする子供がいる一方で、そういう子供たちもいる。非常に両極端化して

います。

編集部 なぜそこまで英語、外国語にこだわるのでしょうか。

ファン 親たちは仕事をする上で英語ができないことに劣等感を感じています。英語ができないから自分は出世できなかったとか、外国人が来た時、すらすら英語が出来なくて恥ずかしい思いをしたとか。これからは国際化が進みますから、自分の子供には世界の人々と臆せず話が出来ようになって欲しいと願っているわけです。それが留学熱につながっていった。それも初めは富裕層だけのことだったわけですが、徐々に親たちの間に競争意識を生み出し、庶民にまで広がっていったということです。

編集部 家庭内にも様々な問題が生まれそうです。

ファン 子供の頃に外国に出て、大人になって戻ってきますから、当然同居していない父親とはコミュニケーションがとれなくなっています。ある時、久しぶりにあった父親が娘に抱きついたら、「セクハラだ」と叫ばれたそうですが、そうした話も冗談では済まない状況になっています。

私が日本滞在中だった80年代後半、日本で子供が家族を殺したりする事件が多発したとき、私は大きな声で「韓国は儒教の国だからそういう問題は絶対にあり得ません」と言ったのですが、それが国に帰ったら同じような犯罪が次々と起こった。ですから、私は今日本で起こっている大きな事件が韓国でもまたいつか起こるのではないかと思います。

韓国の高校生の大学進学率は国連の統計で

は92%ということで、大学はエリートの教育の場ではなくなってきましたが、良い学校に入り、さらに外国語が話せて深い教養を身に付ける人を目指して競っているわけですから、今後どういう世の中になっていくのか、私には予想もできません。



宿泊していたアジア文化会館の洗面所で寮生と（左端）

驚かれた私の日本留学

編集部 日本との関わりについて教えてください。

ファン 私は高校生の時まで日本風の家に住んでいたんです。そこは以前、大金持ちの日本人が建築して住んでいたところで、お風呂は五右衛門風呂で、飛び石や大きな庭石、松の木まである本格的な日本風庭園もありました。父は日本人と仕事をしていましたから日本のことはよく聞いていましたし、私の名前も孝江といって、父が日本人に頼んで考えてもらったものなんです。韓国では珍しい名前ですから、みんなによくどういう意味なのか聴かれましたが、本当のことを説明したら殴られますから言えませんでした（笑）。

もちろん当時の反日感情はとても強いものでしたから、日本に留学すると決めた時には、妹にさえ嫌がられました。ただ、名前のこともそうですが、私自信はまったく気にしたことはありませんでした。

編集部 留学を意識したのはいつ頃からですか？

ファン 留学を意識したのは中学生時代です。転向してきた友達のお兄さんが、アメリカのユタ州に留学しているという話を聞いて、始めて「留学」というものを知り、目が覚めたような気持ちになったんです。そして私も留学したいと思ったんですね。

私が育ったのは、韓国の慶尚北道の2番目に大きな都市ですが、私はそこで暮らすことに大きな閉塞感を感じていました。ここから出て何かを見たい、何かを感じたいといつも思っていたんです。

大学はソウルの梨花女子大に進学しましたが、卒業が近づく頃になると、真剣に留学先について考えるようになりました。当時は留学と言えばアメリカに行く人がほとんどでしたが、私はみなと同じところに行っても価値がないと思い、それなら子供の時から馴染んだ日本に行くのがいいのではと思ったんです。

当時、韓国の大学で日本のことを学べるところはありませんでしたし、日本に関する情報を得るのも大変でしたが、私は好奇



東大研究生時代。研究室で

心と冒険心が旺盛だったので不安はまったくありませんでした。

問題はお金のことで、うちは5人の兄弟がみな次々と大学に進学したため、留学費用を親に出してもらうわけにはいきませんでした。

そこで私は大学を卒業後、国営企業に勤め、お金を貯めることにしました。国営企業は給与も悪くありませんし、1年在職ごとに退職金がどんどん増えいくので、貯金をするにはとても良い職場でした。結局、5～6年働いて、韓国で家を買えるくらいのお金を貯めて、日本に留学することになったんです。

編集部 日本語は韓国にいる時から学んでいたのでしょうか。

ファン 当時は公に日本語を教えている機関はなかったので、日本語は昔日本に住んでいたお年寄りが先生をしている日本語塾に通っていました。生徒は企業で仕事をしている若い人で、留学するために塾に通っていたのは私くらいでした。もともと生徒数

は少ないのですが、初級が終わって中級クラスに進んだら、もう一人だけいた生徒が、私が上手だからと来なくなってしまったんです。結局個人レッスンになってしまい、お金がもったいないので、塾は止めてしまいました。その後はたまたまソウル大学に留学していた日本人と知り合うことができて、その人に来日前の1か月間、コーヒーショップで教えてもらいました。

編集部 当時、留学手続の関係で苦勞されたことなどはありますか？

ファン 当時は留学エージェントなどありませんから、すべて自分で調べて東大の大学院に願書を出したんです。そうしたらしばらくして希望する学部の教授から入学の許可を伝える連絡がありました。ただし、当時の韓国は国民の海外渡航を厳しく管理しており、パスポートをとるのも簡単ではありませんでした。まず韓国の文部省が行う日本語と日本国史、一般常識を一科目とした試験を受けて合格すると、今度はKCIA（韓国中央情報部）による「国家保安と反共に関する講義」を1日受けなければなりません。そうやって初めてパスポートをもらい、それからビザの申請をしたんです。私が留学した1979年当時は1年に900人くらいの留学生がパスポートをもらっていました。

また、当時の日本はアジアの女性に対してあまりビザを出しておらず、私もビザをもらうまで時間がかかりました。

狭くて深い日本の研究

編集部 日本の大学で学んでみて、学問の進め方などで韓国との違いを感じたのはどのような面でしょう。

ファン 韓国の学問はアメリカを中心に広く専門の世界を見るというやり方なので、初めは学問が狭くて深い日本のやり方には違和感を覚えました。私たちは戦争が終わって民主化しましたが、アメリカ的なもののとらえ方（本当のアメリカ的なものが何かはわかりませんが）、を学んで生活してきたわけです。自由主義というものです。ところが東大の場合は進歩主義的で社会主義的な面が多分にあったので、当初は少々脅えましたね。

ですから私は研究室の人に、「私はここで一言でも間違ったことを話したら、韓国の家族にも迷惑をかけることになるので、私はそういうことにはなりたくないし、ただ真面目に勉強をしたいので、韓国の現実や政治に關することを私には聞かないで欲しい」と言っただけです。



寮の新年会でチマチョゴリを着て（中央）

今回の来日で、留学時代同じ研究室にいた法政大学の教授に「あなたは当時 KCIA のことは何も聞くなと言っていましたね。自分が親しい友達が今も社会運動をやっているの、紹介してもいいですか?」と聞かれたのですが、私は断りました。私は生まれながら資本主義に汚染された人間なので、社会運動の研究はするけれど、参加することは出来ません。私は積極的に市民運動をやれる人じゃないからと。私は今も留学した当時の怖さがある、社会運動を積極的に出来ないという面があるんです。

編集部 日本の学問のやり方が、「狭くて深い」ということについてはよく言われていることですが、ファンさんご自身はこの点をどう評価しますか。

ファン フィリピン留学生が「日本では、アフリカの蚊を研究する人は日本の蚊のことがわからない。逆に日本の蚊を勉強する人はアフリカの蚊のことがわからない。それほど日本は狭く深く勉強する」と言っていました。がその通りだと思います。

ただ私にはそれがすごく良かったんです。今は年上の研究者が若い人に負ける傾向がありますが、この年になって私が学問分野でも健在なのは、やはり日本で深く勉強したからではないかと思っています。今回の来日前に40代～50代の研究者と一緒に食事をしましたが、私は彼らをリードして行ける自信を持っています。そんな自信が持てるのも、日本での研究と同じ



ピアニストの中村絃子（左から2人目）さんから、ABKに寄付金が送られた際、在館生を代表してリサイタル会場を訪れる（中央）。1988年4月

く私の日本留学が長かったからだと思っています。

未整備だった留学生受け入れ態勢

編集部 では日本留学が長引いた理由を教えてください。

ファン 当時の日本は、理工系ではない文系、政治や法律、文学等の分野は留学生を受け入れてもせいぜい修士課程まででした。ですから博士課程で私を受け入れてくれる大学がなかなか無かったというのが大きな原因です。

私は東大で研究生をした後、都立大学の大学院に入学したのですが、私たち以前に都立大学には留学生はいませんでした。その時は私以外に、タイの王族の方が入学することになっており、それでわざわざ大学院の外国人留学生制度が作られたようです。ただし都

立大でも博士課程は、留学生に門戸を開いておらず進学できなかったため、博士課程は当時アジアからの学生を積極的に受け入れる姿勢を示していた神奈川大学に進学しました。ただ当時の博士課程には日本人学生もおらず、私一人だけでした。あるとき、以前日本で修士をとって帰った韓国人が研修で来日した際に私を訪ねて来たのですが、私が博士課程で論文を書いていると言ったらびっくりしていま

した。

それが1987年ごろですが、当時は留学生が増える一方で、円高などの影響で授業料を払えなくなる学生も増加しており、日本政府が外国人留学生に対して制度を作るなど、留学生は日本人学生とは別にして取り扱わなければいけない、という雰囲気が出てきた時でした。

編集部 ちょうど日本経済がバブル期を迎えている時ですね。

ファン 円高と好景気で、外国から出稼ぎに来る人も多く、当時の国費留学生の中には奨学金を自分の国に仕送りして、家を買った人もいました（笑）。逆を言えば私費留学生には大変厳しい時代だったということです。

そこで日本政府も留学生に注目し、奨学金の数も増やし、授業料の免除も行われるようになりました。神奈川大ではそうした情報を知らなかったのですが、私が制度の

ことを話したら調べてくれて、その結果私も授業料の免除を受けることが出来ました。それほど、混乱していたというか、当時、外国人を日本の大学に入れるというのは、まだ特別なことだったんです。

編集部 博士課程では期待通りの研究をすることができましたか。

ファン 神奈川大学では東大を退官された藤田勇先生に、ほぼマンツーマンの形で3年間指導をしていただきました。あまりの高待遇で殿様生徒と呼ばれていたくらいです(笑)。

藤田先生はロシア研究では日本一と言われた方で、私はロシア政治思想史の勉強がすごく楽しかった。ですから、研究が深くて偉い先生はこんなふうに違うのかなと思いました。先生は何を質問しても全て答えてくれる。ですから私もその分野には凄く明るくなり、きちっとした自分の判断が出来るようになりました。

博士をとった人はだいたいが良い先生に巡り合っていると言いますが、私もそういった意味では運が良かったと思います。留学生の中には、単位だけとって帰国する人も数多くいますが、それは本当に中途半端で、すごく空しいのではと思います。

ただ、日本では先生方も競争が厳しくて自分の研究に夢中になりますから、日本人学生のことはわかりませんが、特に留学生の面倒を見ることはすごく大変なことなのだと思います。

日本の大学には良い先生が大勢いますから、そういったことが海外に知られたら、日本の大学院には留学生が大勢来るでしょ

う。しかし日本の先生は研究に忙しくて学生を指導する余裕がない。それが研究の深さにつながるわけですが、宣伝力は落ちる。良くも悪くも、そのあたりが欧米と違うところなのではないでしょうか。

韓国の民主化と帰国後の変化

編集部 帰国後はすぐに教壇に立たれたのですね。

ファン 神奈川大学と姉妹校提携を結んだ韓国・馬山の慶南大学師範大学校の日本語学科を日本学科に再編するという話を聞いて、そこに着任することになりました。その慶南大学に5年ほど勤務し、その後ソウルの建国大学に移り、日本事情や日本語のクラスを担当しました。現在は国立の韓京大学で、日本文化をはじめ国際経営論、国際貿易論などを教えています。

留学中はAOTSのアルバイトで韓国人研修生の講義通訳をしたり、研修生と一緒に日本のいろいろな遺跡や寺院等を巡りましたが、それはお金になっただけではなく、日本のことについて学ぶ上でとても勉強になり、全力で吸収しました。

また、研修生の引率では当時好景気だった様々な日本企業の現場にも行きましたし、自動車や農産物など日本とアメリカの貿易摩擦の問題等の同時通訳を何回もやりました。私が今、日本文化や国際経営論、貿易論などを教えることが出来るのは、そういったアルバイトの経験でいろいろ学んだことが大きいからです。

編集部 帰国された時は、韓国の大学で日本に関わる科目が増えていたわけですが、こうした韓国の変化は予測していましたか。
ファン まったく予想していませんでした。私が帰国した1993年は、韓国全体がひっくりかえったように民主化されていました。

当時は金泳三（キム・ヨンサン）大統領の時代で、その前の盧泰愚（ノ・テウ）大統領が民主化宣言をしましたが、その後ロシアと協定を結ぶなど、本当の文民政府になった時に私は帰国したんです。ですから、その時の韓国は私が以前暮らしていた韓国とは全く別世界でした。

私は政治活動にはいっさい参加せず、勉強一筋で留学生生活を過しました。それで学位が取れたのだと思いますが、国内の韓国人に対しては申し訳なかったと思います。帰国した時は、市民運動をした人たちが私に反感を持っていて、「国内ではこんなに苦勞をしているのに、あなたは外国で楽に勉強をしていた」と言われました。まったく楽ではなかったのですが（笑）。

いずれにしても、日本留学が長かったおかげで私は学問に対して大きな自信を持っていますし、もっと学問を愛するようになったことは確かです。

編集部 大学の専門分野としての日本研究というのは今は盛んなのでしょうか。

ファン 盛んですね。言葉も英語、中国語、日本語の人气が突出しています。一方で、フランス、ドイツ、ロシアなどに関わる学科は



東大のパーティーで教授、研究室の仲間と（左から2人目）

閉鎖されて教養部門に回されたところも少なくありません。ドイツ語ならば貿易関連に、フランス文学ならば教養に移されるといった感じです。50年代、60年代はこうした学科はエリートだったんです。そうした意味で、現在は学問も実用的でないと生き残れないという状況です。

もちろんこうした大学の経営面重視の動きには、教授らかの反発がありますが、口にするに「では辞めてくれ」と言われるだけなので、言うときは命をかけなければという雰囲気があります。

韓国人は厚かましい？

編集部 さて、日本人と韓国人の違いについて、印象的なことはありますか。

ファン 日本人は、「韓国人は無理なお願いを平気でしてくる、厚かましい」と言いますが、それは韓国人には当たり前のことだと考える人もいます。自分がもっと上のものを得

るために言ってみて、ダメでもともと、もし出来ればそれに越したことはないわけです。ですからそこに“遠慮”という概念が無いように思われるのかもしれませんが。“言いたいことを言う”、それが通じるように自分の意思を表現するのが韓国人なんです。

ですから、相手が私のことを理解するつもりがあるのなら、出来ないことをやってくれるのが人情で、それは正義とか不正とは関係ない。そこが中国人と韓国人が通じるところで、日本人には理解できないところなんです。

初めて中国に行った日本企業が、現地であまくいかないということがありますが、それがなぜなのか、私たちにはよくわかります。日本人にはできないけれど、韓国人は現地に行つてうまくいく。私は長く日本にいて、いつの間にかこの韓国人特有の厚かましさを無くしてしまっていました。

編集部 では、帰国して少し違和感を感じたのではないのでしょうか。

ファン 少しどころではなかったです（笑）。だから日本で生活した時間と、韓国に戻つてからの時間が最近同じになって、ようやく韓国人に戻ってきましたが、まだまだ足りない。日本では競争をする時も自分というものを表に出しませんから、韓国に帰った当初は負けてばかりでした（笑）。もちろん日本で受けた教育、学問に関してはしっかりしていたから、最後には勝てるのですが、そこまで時間がかかるんです。

ですから、普通の韓国人からは、私がなよなよと頼りなげに見えたと思います。日本式に遠慮して丁寧にやると、この人は何かが足りないと思われて、向こうは一気に押してく

る。こちらを押し返さなければいけないのですが、それができない。後でもっと押せば良かったのと思うことはしょっちゅうありました。

実際に、私は韓国人女性としては初めて政治学の分野では日本で博士（法学博士（政治学））の学位を取ったのですが、それを宣伝していれば、もっと早く専門分野の仕事に就けたかもしれません。そういった点は非常に日本的になっていて、アピールできなかったんですね。だから学問としては、欧米で勉強した人よりも私は自信がありますが、反面非常に日本的になってしまい韓国社会に溶け込むのにはマイナスなところもありました。

編集部 欧米に留学した人もやはりそれぞれの国民性に影響されている人が多いのでしょうか。

ファン 彼らはあまりその国に適應することなく、ただ外国人として学んで学位を取ってきますから、その国の文化に影響されていない、ほとんど韓国人そのものなんです。

欧米の学生と指導教官の関係はある程度自由で、フランスならフランスのことを身に付ける必要もなく、本国の学生と外国人学生を制度上分けて、学位を出しています。ですから、学位取得に日本ほど時間はかかりません。アメリカもそうですね。ですから、自分が留学した国の文化をあまり理解していない人も多いんです。

私は長かったから良いと言っていいのかわかりませんが、少なくとも日本の事情をより深く理解し、日本人的な感覚を身に付けて帰ったことは確かです。ですから、大学で試験をすると、「先生は日本人みたい」、「親日

派みたい」と、試験の答案用紙の下に書いてある。彼らから見れば、私はすごく日本化されているのだと思います。

ですから、帰国して何年か経ったころ、授業中に学生から「日本を褒める話をそんなにしないでください。」と言われ、私は「あなたたちに日本をよく知ってもらうために詳しく説明しているのですが、みなさんには私が自分の国を捨てて、日本ばかりを褒め称えているように聞こえるのかもしれないね。」と説明したこともありました。もし地方の大学だったら、こうした空気はもっと強かったかもしれません。

ただ、じゃあ日本で学んだほかの先生にも私のような雰囲気があるのかなと見渡してみましたが、そうでもないように見えました。たぶん私は一つのことに夢中になる性格ですから、日本に来て、日本に夢中になった。お葬式や結婚式などの冠婚葬祭にも出かけて学んだし、お祭りなどの行事にも出来るだけ参加して学びました。そうした興味の深さが日本びいきに取られたのかもしれない。

編集部 日本への適応についてはいかがでしたか。

ファン 私は生活に慣れてからはすごく日本が好きになりましたね。あまり韓国の食べ物も食べませんでした。だから今海外に行く学生には現地に行ったら現地の食べ物を食べなさいと言うんです。やはり現地の気候や風土には現地の食べ物が一番合っていますから、体調も維持しやすいんです。私も日本風の食生活にしたら、心も体も安定して調子良くなり、生活も楽しくなりました。

編集部 今後のご予定などを少し聞かせてく

ださい。

ファン まず、自分の専門である政治思想史について本にしたいと考えています。また、韓国人は日本についてわからないことがたくさんあるのですが、それを掘り起こして、優しい言葉で書いてみたい。さらに、それを契機に若い人たちの真の韓日交流を促したいですね。

こういった韓国の転換期に、私はどういうふうに分が人間として、女性として生きるかすごく悩みました。今、韓国の女性としては私は進んでいて、生き方のモデルがありませんから、中国の昔の古典や西洋の文学等を読んで、そこに生きる道を探しながら歩いて行っています。

一般の韓国人ならば、私の年で若い人と一緒に食事をするのではないと思いますが、私は若い人と一緒に食べながら自然に話をし、この人は50代でもちょっと考え方が古いなと思うと叱るんです（笑）。

編集部 日本に留学して良かったということですね。

ファン 日本留学当時の東京には本当に夢があり、たくさんの勉強をさせてもらいました。もし来日が若すぎたら感じ方は違ったのかもしれませんが、ある程度成熟した年齢でしたから、日本での生活全てが勉強になり、経験になり、凄く役立ち、今的確な判断も出来るようになりました。

ですから、私を一人前にしてくれた日本での留学生時代は私の青春そのものなんです。

編集部 日韓の相互理解がますます深いものとなるよう、長くご活躍いただけることを願っております。



<奨学金などの日本留学に関する情報は JPSS で！ <http://www.jpss.jp/>>

しょうがくきんじょうほう 奨学金情報

■サトー国際奨学財団

対象：①バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、モルジブ、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナムから来日し、文部科学省所轄の大学の学部または大学院に在籍する当該国の国籍を有する私費留学生 ②他の奨学支援団体等から奨学金に類する金品を受給していない者 ③在留資格「留学者：college student」を有すること ④国際理解と親善に関心を持ち、財団の交流会に必ず出席できること ⑤日本で就業している親がないこと ⑥「博士」の学位を取得していないこと ⑦現在在籍している課程の在籍期間が

2011年4月より1年以上あること。(ただし大学院博士課程についてはこの限りではない)

⑧日本語でコミュニケーションがとれる者

⑨在学証明書の有る者

給付金額：(学部生) 月額12万円、(大学院生) 月額18万円

給付期間：①2010年10月期生・・・2010年10月から2012年9月までの2年間

②2011年4月期生・・・2011年4月から2013年3月までの2年間

(ただし、採用時の課程に在籍する期間を限度とする。)

採用人数：10名前後

応募：在籍する大学の留学生課を窓口として、応募書類を募集期間内に留学生課から財団宛に郵送にて提出すること。

募集期間：9月9日(木)～9月15日(水)

※ただし、2011年4月入学の新1年生に限り9月22日(水)まで受け付けます。

実施団体連絡先：〒153-0064 東京都目黒区下目黒 1-7-1 公益財団法人サトー国際奨学財

団事務局 ☎03-5487-2775

URL <http://www.sisf.or.jp>

■渥美国際交流奨学財団

対象：次の全ての資格に該当すること ①日本以外の国籍を有し、日本の大学院博士課程

に在籍し、2012年3月(秋入学は9月)までに博士号を取得する見込みのある方。

正規在籍年限を超えたために、または他国の大学院より博士号を取得するために、研究員等として日本の大学院に在籍する方も含む

②所属する大学院研究科(研究室)と居住地が関東地方(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県)にある方

③国際理解と親善に関心をもち、当財団の
交流活動に積極的に参加する意思のある方
給付金額：月額20万円

給付期間：2011年4月（または9月）から1
年間

新規採用：10名

応募：各大学院の留学生担当課または財団事務
局まで応募書類と申込書を請求。ホームページ
からダウンロードも可。受付は9月1日（水）
～30日（木）

実施団体：渥美国際交流奨学財団事務局

東京都文京区関口3-5-8 Tel 03-3943-
7612

E-mail office@aisf.or.jp

ホームページ <http://www.aisf.or.jp>

■ロータリー米山記念奨学会

①学部課程奨学金

(a) 日本以外の国籍を有する者で在留資格「留
学：College Student」で日本に在留して
いる者、または日本の大学等に在学中で法務大臣
から「難民：Refugee」の認定を受けて日本
に在留している者

(b) 2011年4月に学部課程3・4年目（医・
歯・獣医学部は5・6年目）、高専専攻科1・

2年目、専修学校高度専門士課程3・4年目に
在籍する者

(c) 他の奨学金を受給していない者（在住の留
学生全員が受給対象になる地方自治体の学習奨
励金や学術上の貢献に対する一時的な褒賞金、
および授業料免除は奨学金とみなさない）

(d) 45歳未満

(e) 博士の学位を取得している者には応募資格
がない。ただし、既に取得している博士の学位
と異なる研究をする場合には、応募資格がある

②修士・博士課程奨学金

(a)・(c)～(e)は学部課程奨学金に同じ

(b) 2011年4月に、修士課程1・2年目、博
士課程2・3年目（医・歯・獣医学系博士課程3・
4年目）に在籍する者

給付金額（月額）：①10万円 ②14万円

給付期間：課程修了までの最長2年間

新規採用：約600名

応募方法：学校（指定校制）を通じて申し込む。

10月15日（当日消印有効）

募集要項・申込書・指定校は下記ホームページ
を参照

主催者連絡先：☎ 03-3434-8681

URL <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>

イベント情報

■日本語学校生のための専門学校進学相談会

日本語学校生を対象に、専門学校への進学などについて各専門学校が個別に相談に応じる相談会
です。この機会に進学に関する疑問点や不安点を解消しましょう！

- ・日時：2010年9月15日（水）11:00～16:30
- ・会場：池袋サンシャインシティ文化会館3階展示ホールD

<JR、営団地下鉄、私鉄各線「池袋」駅徒歩8分>

にゅうじょうりょう むりょう
・入場料：無料

しゅざい しやだんほうじん どうきょうとせんしゅうがっこうかくしゅがっこうきょうかい わたくしりつせんもんがっこうしんこうかい
主催：社団法人 東京都専修学校各種学校協会、私立専門学校振興会
じゅうしょ どうきょうとしぶやくよぎ いしやま
住所：〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-58-1 石山ビル 6F

TEL：03-3378-9601 HP：http://www.tsk.or.jp/

■外国人留学生就職活動準備セミナー（2010）

にほん まな がいこくじんりゅうがくせい 日本ので学ぶ外国人留学生が、それぞれのキャリアデザインに沿った就職ができるよう、留学生の就職・採用活動に関する有益な情報を提供することを目的として実施します。

・日時：（東京）2010年10月3日（日）10:00～17:00

（大阪）2010年10月17日（日）10:00～17:00

・会場：（東京）東京国際交流館プラザ平成 <新交通ゆりかもめ「船の科学館」東口徒歩3分>

（大阪）大阪国際交流センター <千日前線「谷町九丁目」下車>

・内容：就活オリエンテーション、業界別セミナー、就活体験談他

・主催：独立行政法人 日本学生支援機構

・問合せ：外国人留学生就職活動準備セミナー運営事務局 Tel 048-485-2384

MEMBERS

〈ご入会とご寄付の報告〉

2010年6月

特別会員

（株）アイデント 狛江市

正会員

（2口）

柳瀬 修三 タイ

（1口）

内山 敦之 中野区

増井 潤一郎 中野区

岩尾 明 日田市

樋口 隆一 文京区

（財）日立国際奨学財団 千代田区

土屋 元子 千葉市

ご寄付

山崎 光郎 横浜市

大島 光恵 練馬区

岩尾 明 日田市

2010年7月

特別会員

今西 淳子 文京区

松平 吉世 羽生市

（株）ソフトネット 立川市

賛助会員

（株）日吉 近江八幡市

（財）国際文化交流協会 新宿区

正会員

（1口）

湊 勝昭 岡崎市

昌谷 春海 町田市

斎木 史 足立区

近藤 清子 秩父市

石田 恒久 港区

山田 侃 戸田市

山田 守一 港区

竹林 惟允 練馬区

鈴木 八重子 志木市

宮前 つる代 秩父市

文 大宇 さいたま市

大田原 康彦／真澄 中央区

小池 都 さいたま市

森尾 正照 北巨摩郡

中西 鶴子 名古屋市

横浜市国際学生会館 横浜市

橋本 匠弘 坂戸市

荒井 不二雄 小矢部市

忍足林基 江東区

荒川 雄彦 所沢市

大里 浩秋 逗子市

大和 正國 鶴ヶ島市

佐藤 郁夫 仙台市

井上 美和子 文京区

横山 昌幸 千葉市

奈良 自起 大田区

関 正昭 平塚市

大杉 立 つくば市

ご寄付

斎木 史 足立区

栗原 静子 気仙沼市

湊 勝昭 岡崎市

ご報告

A B K 同窓生募金 (2010年7月31日現在)



●目標額：5,000万円

●募金額：4,372,971円

●寄付者数：45件

〈() 内は出身国・地域、ABC順。一部五十音順〉

〈カンボディア〉 忍足林基 〈中国〉 Meng Xiao Xiao、Zhou Xiang 〈インド〉 Ashok Saraf

〈日本〉 浅見博子、石井信彦、小木曾建、工藤幹雄、金野隆光、高木桂子、高橋喜久江、高橋作太郎、田口昌子、竹林惟允、堤祐子、外山経子、西原彰一、平岡明子、細川哲士、堀内智代子、堀幸夫、松岡弘、柳瀬修三、六文会、匿名希望(2名) 〈マレーシア〉 Ang Wan Leng、Beh Teck Chuan、Lee Tee Boon、Seah Boon Chieng、Soon Sai Kheng、Tan Cheet Yong、Tan Wee Pin、Tan Wee Seng、Toh Leong Chee 〈シンガポール〉 Foo Choo Wei 〈台湾〉 Liu Li Mei
〈タイ〉 Krisada Visavateeranon、Pilaipan Mekaratana、Saowanee Patrakarn、Suchittra-Hunbunchakit、Supong ChayutsahakijTana Tangtrongsakdi、泰日経済技術振興協会、Wiwut-Tanthapanichakoon

*なお、募金のご報告は「アジアの友」並びに同窓会ホームページで随時ご報告させていただきます。

募金に関するメール

*氏名(在住国・地域)〈メールの日付〉

Wiwut Tanthapanichakoon (タイ)

6月25日

Dear Ogiso-sensei, I just want to inform you that TPA will proceed with the donation process for 800,000 THB (about 2.2 million yens at the current exchange rate). Meanwhile, Thai ABK alumni will also make personal donations as appropriate. Best regards,

TPAは80万バーツ(現在の換算レートで約220万円)を寄付する手続きを進めていることをお知らせいたします。同時に、タイABK

同窓生として個人的にもご寄付させていただきます。

(泰日経済技術振興協会会長)

6月26日

Dear Ogiso-san, I just want to inform you that, in addition to the promised donation from TPA (under processing), I have also made my personal donation already.

I hope the vital ABK fund raising will meet and even overreach its original target.

By the way, I don't know if it'd be wise or not to send out progress of the amount raised at, say, quarterly interval. Best

regards,

TPAからお約束の寄付は今手続き中ですが、私の個人的な寄付の手続きをすでにいたしましたのでお知らせいたします。大変重要なABK募金がその目標を達成することを、更に目標以上の成果を上げることがを願っています。ところで4半期ごとに集まった募金額の進捗状況を発表するとより効果的ではないかと思いますので、ご提案いたしたいと思います。

柳瀬修三（タイ在住）

6月22日

これからは、ABKに関係する人に会うごとに募金についてお話してご協力いただくようにします。

6月28日

Vさんがメールでいただいた募金のご案内は、Tさんに転送され、Tさんは彼のグループとして纏めてVさんから送金したいとの連絡がありました。タイの国費留学生グループでBさん他先輩達へのご案内はどうしたらよいでしょうか。SさんにはABKからすでにご連絡されていますが、他にも国費留学生の関係者が何人かいますが、その連絡方法をどうしたらよいか考えています。

6月29日

1) Vさんからの連絡です。Pさんに電話したら募金のはすでに知っておられて喜んで参加しますとのことだったと言っておりました。メールでの連絡は結構ですとのこと。

2) 早速V2さんに関係者のメールアドレスを調べていただきたい旨、お願いしました。

国費留学生関係は、Nさんが理事をされているのでNさんを通して調べていただくということで考えているとのこと。何でもしますのでご遠慮なくご指示下さい。

6月30日

Vさんからの話です。S2さんは当地での事業が成功して頑張っておられるようです。今回の寄付の件は喜んで参加しますとのこと。

7月19日

S3さんに先日穂積先生の命日の法事でお目にかかった折、小木曾さんからABK募金のご案内をいただいたことを大変喜んでおられました。「徳を積む機会を与えられるということは大変難しいことですよ」と言っておられました。Sさんからは送金の方法を聞かれて、同席していたAさんが、ABKのホームページからクレジットカードで振り込む方法をご説明しました。留学生他関係者に呼び掛けて本当に良かったですね。

7月28日

P2さんのメールを拝見しました。9月に日本へ行かれるという娘さんは、今年日本へ留学された有名は漫画家とご結婚されてます。ABK-AOTSタイ同窓会は、今年11月にパタヤでAOTS関係の4年に一度の総会を開催する為の準備に追われていて、募金に関する方針、進捗状況は分からないでいます。

7月29日

私は参加できなかったのですが、日本のUさんがPさん、S2さん他と会食された際、ABK同窓生基金への募金をお預かりしたようです。皆さんご連絡をいただき喜んで居られたとのこと。

(元職員、ABK-AOTS タイ同窓会顧問)

Pholchai Limviphuvadh（タイ）

7月27日

メール本当にありがとうございました。大変うれしく拝読致しました。小木曾さんも元氣のご様子でうれしく存じます。つきましては、標題の件、喜んで募金をさせていただきます。家内と娘達（2人）も一緒に募金させてほしいといっておりますので、4口とさせていただきます。尚、送金は9月、娘が日本に行きますのでその際に振込みさせていただきます。振込み次第又、ご連絡

申し上げます。ご連絡下さりありがとうございます。タイにおいでの際はぜひご連絡下さい。一緒に食事でもしていろいろお話を聞かせていただければうれしく存じます。

Tan Wee Seng (マレーシア)

7月8日

私はABK日本語学校第2期生のTan Wee Sengです。ABKの皆様に関するメールを、小木曾さんから頂きまして、本当に嬉しく思っております。「ABK同窓生募金」へのご協力のお願いにつきましては、同窓生としての私もお協力させて頂きたくと思ひまして、昨日クレジットカードで2口の募金を送らせて頂きましたので、ご査収宜しくお願ひ申し上げます。(決済を行ったウェブ・ページを添付致します) 最後ですが、ABKでお世話になった皆様(工藤さん、近藤さん、Fooさん、倉部さん、白石さん、栖原さん、松井さん等の方々)に宜しくお伝え下さるようお願い致します。ABKは引き続き多くの方々の支援を受け恵まれた環境の中、必ずより発展できると確信しております。以上、宜しくお願ひ申し上げます。

T eng Kim Yin (マレーシア)

7月11日

ご無沙汰していますが、お元気でしょうか。募金の件については、承知しております。現在、まとめ役の先輩Chang Chew Chinさんが私たち(シンガポール、マレーシアを含めたABK同窓生)の募金を集めてお送りしたいと思います。また、それぞれの都合で直接口座に振込むこともありますのでご承知願ひます。以上、宜しくお願ひ致します。

Ng Thian Eng (シンガポール)

7月13日

御多忙の中、またもう一つの長文を書き送りま

す。紛らわしくならないように、極力短く述べさせて頂きます。小生はABK日本語コース第2期生で、早稲田建築卒のNg Thian Engと申します。大変御無沙汰しました。僕らは、人生一番楽しい青春期は、遠い日本に過ごし、勉強し、異文化の環境で成長しつつ、そして自分の人生を歩み出しました。日本に長くいたせいか、かなりの方は、帰国当初、頭を下げる習慣や、日本語が自然に口より出てしまい(日本語は大して上達してないけれど)、戸惑ったことは、経験したと思います。日本留学の洗礼をうけ、今の僕らになり、感謝の気持ちは皆さんの心があり、ABKの精神は改めて偉く感じます。小生も僅かながら、協力させて頂きます(一期生のChangさんに纏めて頂いております)。目標額の早期達成をお祈ります。以上失礼しました。(残業時間に書いています) 追伸: 小生は現在、鹿島シンガポールに働いています。宣伝になりますが、耐震建築に関して、鹿島は先端技術を保有しており、新校舎の建設に関して、より安心、優れた方法を提案できます。(業者が未決定であれば、是非考慮して下さい)

Kenneth Wong (シンガポール)

7月13日

お仕事中、大変、失礼します。Tan Wee Sengさんの宛のメールを私の方にも転送いただきました。ありがとうございます。二期生の黄復翔です。(因みに小生の旧名は黄福祥) この程、ABK同窓生募金(ABK Alumni Fund)の理事長様の原文を張先輩及び二期生でもあるTan K.H.さん経由のメールで拝見致しております。滅多にないチャンスですが、これに当たって、きっと各国の元ABK同窓生からの多大な応援をいただいていると思われます。ABKはもう同窓生の皆様の日本での生活・勉強そのものであり、仕事であり、研究であり、で一番に思い出を感じた所ではないでしょうか。私も、多数のシンガポー

ルに住んでいる元 ABK 同窓生がすでに張先輩經由で寄付をなされております。(恐らく、すでに彼の方から連絡がいつている筈です)。因みにマレーシアからの Teng Kin Yin さんもシンガポールに在住しております。そこで、ABK の為に、張先輩よりお願いの件ですが、マレーシアの元留学生で ABK でお世話になっていた人は沢山いると思いますので、寄付のご提案を聞いてご協力もして頂けるとと思いますので、若しもその方達の名前をリストアップして頂けたら、こちらでの呼びかけも出来るのです。(有ったらいいなと思います。) ABK の ABK 同窓生募金 (ABK Alumni Fund) の穏やかな御出帆および、その大成功を納めるようにいつもお祈りをします。オフィスの皆様、特に工藤さんを始め、栖原さん(まだ、ABK にいらっしゃるんですか?)、倉部さん、阿部さん、白石さん、及布施さんにくれぐれもよろしくとお伝え下さい。長文で失礼しました。

Lee Tee Boon(マレーシア)

7月13日

大変ご無沙汰しております。ABK 日本語コース 1991 年度卒の LEE TEE BOON です。(恥ずかしいですが、何期生であるか分かりません。) ABK 同窓生募金活動のお知らせを頂いてから、かなり時間が経っての返信お許し下さい。本来直接 ABK にお伺いし、お手渡しの予定だったのですが、生憎都合がつかず、ABK への訪問が実現できませんでした。本当に残念でした。いずれにしても、僅な気持ちですが、先ほどクレジットカード決済にて、送金させて頂きました。お確かめ下さい。今回の募金活動を経て、改めて先輩たちの ABK に対する熱意を実感することができました。特に、Wong Fook Shyang 先輩と Tan Wee Seng 先輩の両先輩からの呼びかけには、感心しました。この呼び掛けがあったからこそ、私自身も募金活動に参加し、何とか力に成れた

らと思います。最後になりますが、皆さんが一丸となって、今回の募金活動に参加して頂ければ、必ず目標達成できると信じております。

Lee Kian Ling (マレーシア)

7月13日

大変ご無沙汰しております。僕は ABK 3 期生の Lee Kian Ling です。目下、第 1 期生の Chang Chew Chin さん(張昭成、京都工業繊維大学卒、マレーシア出身)がまとめ役として先輩及び後輩達に呼びかけて、寄付を募っているところです。ABK 卒業生の中で、特にマレーシア出身者の多くがいま、マレーシアとシンガポールを拠点に各業界の第一線で活躍されているかと思えます。私事にわたって恐縮ですが、僕はいまタイに出稼ぎ?に来了います。今回の募金について、同窓生の力を合わせて、微力ながらお手伝えさせて頂きます。最後に工藤さんを始め、阿部さん、近藤さん、Foo さん、栖原さん、倉部さん、白石さん及び職場の皆様宜しくお伝え下さい。末筆ながら皆様のご多幸をお祈りいたします。

Arun Wagle (インド)

7月2日

Dear Mr. Ogiso, I acknowledge with thanks receipt of your email. In the week of July 12, 2010, one of my friends, an AOTS Alumni, Mr. Raghavan Chakrapani, is visiting Japan. I wish to send through him a traveller's cheque for the amount Yen 10,000 drawn in ABK name. I hope you will accept it. On July 10, 2010, our AOTS Alumni, AAAWI, is having Annual General Meeting. I, as President of this Alumni, will be appealing all our members. The collection we make will be sent through Mr. Raghavan. I wish all the ABKD members support the ABK cause and the next time

I happen to visit Komagome, I will see a beautiful Gakko on the same style as the one built opposite ABK. I saw that biru first time where we enjoyed a tasty dinner with my old friends.

With best regards

メールを受領いたしました。ありがとうございます。2010年7月12日の週にAOTS同窓生の私の友人 Mr. Raghavan が訪日します。その時にABK宛の1万円の小切手を、彼を通してお送りしたいと思っています。お受け取りください。7月10日にAOTS同窓生(AAAWI)の総会が開かれます。私は同窓会の会長として、すべての会員にお知らせいたします。われわれの集めた募金は、Mr. Raghavan に託したいと思っています。すべての同窓生がABKの募金を支援することを願っています。そして次回私が駒込の地を訪ねた時にABKの反対側にある建物のように美しい学校に出会えることを願っています。(私が旧友たちと夕食をとともにした場所の建物)

(AOTS ムンバイ同窓会会長)

Nirmala Baskar (インド)

7月27日

メールどうも有り難うございます。ランガさんと相談して個人的にしますか、又は我々同窓会から集めてやりますかを決めて進みたいと思います。どうもありがとうございます。よろしくをお願いします。(ABK-AOTS同窓会タミルナドセンター、日本語学校校長)

Heng Fu Chong (ドイツ)

7月25日

Ogiso san, Thanks. I will try my best to support your request for cooperation in ABK Alumni Fund. Say hello to all ABK staff. Best regards.

小木曾さん、ありがとうございます。ABK同窓生募金協力の呼び掛けに少しでもだけのことしたいと思います。ABKの職員の皆さまによろしくお伝えください。

E.V. Abrenica (フィリピン)

7月6日

Dear Ogiso San, Thank you for your email last June 23, 2010 regarding the request for cooperation in "ABK Alumni Fund". Since I am visiting Tokyo possibly on October

this year tentatively which I would like to meet you. Anyway, I will send you again an email regarding with my definite schedule to visit Japan. For your information and as far as my personal view is concern, there will be no problem in our cooperation. Mean time, I will just wait my schedule to visit you personally.

My warm regards and thank you again.

小木曾さん、2010年6月23日付ABK同窓生募金協力の呼び掛けのメールありがとうございます。今年の10月に可能であれば東京へゆく予定なのでその時小木曾さんにお目にかかりたいと思っています。再度、東京行きの日程に関してはメールいたします。ABK同窓生募金のお知らせに関しては、私の個人的な意見ですが、問題はないと思います。これからあなたを訪問する日程が決まるのを待っています。ご厚意に感謝いたします。

Abdur Rahman Siddiqi (パキスタン、日本在住)

7月27日

Dear Mr.Ogiso Yu. Director General/Principal. Thanks for the E-mail about ABK Alumni Fund. I have carfully read your appeal. It is very comprehensive and clear. The objective is very noble and justified.

I whole heartedly support this cause. Here I want to say a few words to my Alumni friends. Please pass on to them.

ABK 同窓生募金に関するメールをありがとうございます。私は、あなたからのお願い書を精読しました。大変総合的で明瞭です。大変高い目的でかつ正当なものです。私は、これを心から支援いたします。ここに同窓生である仲間の皆さんへ申し上げたい言葉を添えますので、同窓生の皆さんへ伝えてください。

When we were young ABK patronised us,
When we knew nothing ABK trained us,
When we needed scholarships, ABK arranged support to us,
When we were having no air tickets, ABK assisted us,
When we could not eat Japanese foods, ABK arranged special dishes for us,
When we were SAMISHII, ABK arranged Festivals and Parties for us,
If we knew nothing or very little about Japan, ABK broadened our vision,
Our companies, our industries and our countries gained so much from ABK.
We know how ABK helped when we were sick.
Right from Hozumi Sensei to Ogiso Sensei and all staff members, Ladies and Gents and the kind Kitchen People never refused to hear our long and loud talks even Okawari no gohan was always available without any objection.

我々が若かった時、ABK は我々を後押ししてくれました。

我々が何も知らなかった時、ABK は我々を訓練してくれました。

我々が奨学金を必要とした時、ABK は我々のために支援者を探してくれました。

我々が航空券を入手にできなかった時、ABK は我々を手助けしてくれました。

我々が日本食を食べられなかった時、ABK は我々に特別食を作ってくれました。

我々が寂しかった時、ABK は我々にお祭りやパーティーを開いてくれました。

もし、我々が日本について何も知らなかったり、ほんのちよっとしか知らなかった時に、ABK は我々の視野を広げてくれました。

我々の会社、我々の産業、そして我々の祖国は ABK から沢山のものを得ました。

我々が病気にかかった時、ABK が我々をどのように助けてくれたかを知っています。

穂積先生から小木曾先生へ、そしてすべての職員、女性も男性も、そして親切な食堂のスタッフもみんな、我々の長くて大きな話声も、ご飯のお代りの声も決して拒まれず、いつも文句なく受け入れられました。

Dear friends, It is time to return some favour to ABK the organisation who did so much for us all and contributed to our personal development, and our country.

I suggest that we should take the appeal of Director General and Pincipal of ASCA,

みなさん、我々すべてのためにそんなにたくさんの方のことをしてくれました、我々一人一人の成長にそして我々の祖国の発展に貢献してくれました。ABK に何かの好意を示す時です。我々は、ASCA の理事長・校長からのお願いに応えようじゃありませんか。

A FRIEND IN NEED IS A FRIEND IN DEED. Let us prove!. Let us give practical and cash support not just by words, Shall we? Yes of course! It is matter of morality too.
(Please accept my humble donation to ASCA Alumni Fund).

困っている時の友が本当の友です。それを証明しましょう！実践しましょう！口先だけでなくお金で支援しましょう。しなければなりませんね！もちろん！道徳の問題でもありま

す。(私のABK同窓生募金へのささやかな寄付をお受け取りください)

Budhi S Kohar (インドネシア)

7月26日

Dear Mr Ogiso, Good morning. It is my great honor to receive an important information from you. I will be very glad to participate in this ABK Alumni Fund. Is this 1 time participation or monthly basis participation? Can I send it at the end of August 2010? I think, to send the money by bank transfer is very costly. I will ask my network in Tokyo to send the money on behalf of my name. I am waiting to have your comments.

Thanks and regards,

おはようございます。小木曾さんより大変重要なご連絡をいただきとても光栄に思っています。私はABK同窓生募金に参加できることを大変嬉しく思っています。これは、1回の参加でしょうか?或いは毎月ですか?お伺いします。私は8月末に募金をお送りしてよろしいですか?銀行経由でお金を送ると大変手数料が高いと思います。そこで、私は、東京にある私のネットワークに依頼して私に代わりお金を送ってもらつつもりです。あなたのご意見をお待ちしています。

C.B.J. Rao (インド)

7月24日

My dear Ogiso San,

I am very delighted to be informed about the decision to raise funds for ABK Alumni Association. As a person who has benefitted from my stay in the ABK and study in Japan from 1964 to 1972 and having achieved what ever little I could in the world, I deem it a privilege to

rally to recruit some support for the ABK Dosokai. Please feel free to advice as to how do you propose to accomplish this task, and I shall endeavour to do the best. "Gambarimashyoo" During the last two years, I have not been keeping too well because of my diabetes and mismanagement of an infection on my left foot, which resulted in the amputation of my left leg, below the knee and subsequent rehabilitation. Though incapacitated, I am still working hard to develop Organic Faming and transfer of other technologies from countries like Australia to india. Trust this meets you all in best of health and cheer, Kudo San go fufu to otaku no okusama ni yuroshiku otsutaen kudasai, Anata no yoi otomodatchi. Yours sincerely,

ABK同窓会の募金を行うことに関してのご案内をいただき嬉しく思っています。1964年から1972年まで日本に滞在し、ABK滞在中お世話になった一人として、世の中で成し得たことはいまだ少ないですが、ABK同窓会のために支援者を探すための集まりを持とうと考えています。この募金を達成するためどのような提案をしていのか遠慮なくアドバイスをしてください。私は最善を尽くします。「がんばりましょう」。実は、この2年間私はあまり健康がすぐれませんでした。糖尿病とひざ下左すねの切断手術に伴う感染の手当てが悪かったため長引き、それに続くリハビリテーションのためです。たとえ能力が及ばずとも、わたしはいまだ有機農法の開発とオーストラリアのような国々からの技術の移転をインドにおこなうために働いています。あなたがた全員が健康で元気に過ごせますよう、工藤さんご夫婦と、お宅の奥様によろしくお伝えください。あなたのよいともだちより。

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名称：財団法人アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設立：1957年（昭和32年）9月18日

故穂積五一氏創設

目的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的統合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◆会費（年額）◆

正会員 10 1万円

賛助会員 10 5万円

特別会員 10 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購読だけを希望される方には、購読料年間3千円（学生2千円）でお送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

日本留学生活に必要な最新のニュースを毎月届けます！

ABK 留学生メールニュース

ビザ手続き関連情報

医療・保険情報

就職アルバイト情報

イベント情報

各種試験情報

奨学金情報

外国人相談情報 他

登録は WEB から <http://www.jpss.jp>

後記

懸案のABK同窓生募金が始まりました。早速の関係者の方々の反応に改めて感激すると同時に身の引き締まる思いです。募金をしてくださるみなさんの、「ABKへの思い」を引き継いでゆかなければと思いました。(F)

韓国の黄孝江（ファン・ヒョカン）さんが、約20年ぶりにABKへ里帰りした。かつて10年ほどをABKで過ごしたファンさんを知る各国の留学生は多い。みんなのお姉さんだった。日本滞在中に徐々に腕を上げたファンさんの韓国料理は心をこめて丁寧に作り上げられた抜群の味で、ABKの新年会では韓国料理コーナーは一番人気だった。また、特別の時に着るチマチョゴリ姿も素敵だった。今回は、ゆったり時間をとって大学院時代お世話になった先生方や研究室の仲間、日本の友人たち、協会の職員等と日々旧交を温めるのだと、毎日楽しそうに過ごしていた。インタビューではファンさんにとっての日本留学について改めて伺ったが、軍事政権時代を経て、民主化を勝ち取り、現在の経済発展に至る韓国と、それぞれの時代背景の中に存在する留学生の姿を二重写しにしながら、これまで伺ったことのない話もいろいろ伺うことができた。(F)

アジアの友 2010年8-9月号

2010年8月20日発行（通刊第486号）

年間購読（送料共）3,000円（学生2,000円） 1部 500円（税込）

発行人 小木曾 友

編集 アジアの友編集部

発行所 財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)

電話番号：03-3946-7565/4121 ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754 E-mail: tomo@abk.or.jp

ホームページ：(<http://www.abk.or.jp/>)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-7565/4121 ☎+81-3-3946-7599

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: <http://www.abk.or.jp/>

「アジアの友」の購読会員（年3,000円・学生2,000）にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。

「ABK 同窓生募金」へのご協力のお願い

(財) アジア学生文化協会では、現在、下記の通り、「ABK 同窓生募金」を行っています。これまで長年にわたって ABK と縁を結んだ方々皆様（留学生 OB・OG をはじめ、日本人関係者）にご協力をお願いしています。なお、ご寄付して下さった方々は、そのお名前を、金額の多寡にかかわらず、記念銘板に刻印し、長く保存させていただく考えております。また、高額寄付者への顕彰を別途用意いたします。世界的な不況の折、誠に心苦しい限りですが、何卒、ご理解とご協力を下さいますようお願い申し上げます。

財団法人アジア学生文化協会 (ASCA)
理事長 小木曾 友

募金内容

- | | |
|---------|--|
| 1. 名 称 | 同窓生募金 |
| 2. 目標額 | 50,000,000 円 (伍千万円也) |
| 3. 寄付金額 | 一口 10,000 円 < 一口未満でもお受けします。但し、一口未満の時は 1000 円以上でお願いします > |
| 4. 使 途 | ABK が設立する学校法人の「運営資金」に当てる (注)
(注) 学校設立には、校舎建設資金 (約 5 億円) のほかに、教育の健全性を保証するために「運営資金」 (約 5,000 万円) を所有することが必要です。募金はそのためのものとします。 |
| 5. 募金対象 | ABK と兄弟寮に居住したことのある各国 (在日を含む) 留学生・技術研修生・日本人学生の OB/OG (約 1,000 人)、ABK 日本語コースの卒業生 (約 4,000 人)、及び ASCA の日本人職員・会員等 (約 1,000 人)、並びに本募金趣旨に賛同されるすべての皆様 |
| 6. 期 間 | 2010 年 4 月 1 日から 2 年間 |
| 7. 送金方法 | 次の 1)、2)、3) のいずれかの方法で、ご送金下さい。 |

1) クレジットカード決済による送金 (下記ウェブサイトで手続きできます)

寄付のお申し込み <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/fund.html>

*セキュリティ上の必要から、1 回の送金は上限 300,000 円 (参拾万円也) でお願いします。

2) 銀行振込みによる送金 (下記銀行口座にお振り込み下さい)

銀 行 名	みずほ銀行 本郷支店
口座番号	普通預金 NO.2789045
口座名義	財団法人 アジア学生文化協会
住 所	東京都文京区本駒込 2-12-13 ☎ 03-3946-4121

3) 郵便振替による送金

郵便振替口座	00150-0-56754
加入者名	財団法人 アジア学生文化協会

* 振替用紙は『アジアの友』に挟み込まれています

お問合せ先: (財) アジア学生文化協会 50 周年記念事業委員会事務局

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館

Tel.+81-3-3946-4121 Fax.+81-3-3946-7566 E-mail: asca50com@abk.or.jp